

三芳町子ども読書活動推進計画策定

子どもたちに読書の喜びを

子どもたちに本の楽しさ、大切さを教えるため図書館ではさまざまな事業を行っています。

推進計画の策定

子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、「子ども読書活動推進計画」（平成24～28年度の5年間）を策定しました。平成28年度には計画の見直しを図ります。

読書の喜びを

「子どもたちに読書の喜びを」が基本理念です。町で育つすべての子どもが読書の楽しさに触れ、知る喜びを獲得する中で、自身の可能性を広げ、その人生をより深く魅力的なものにしていく人間に成長できるように、学校・家庭・地域の絆を大切にしながら、子どもたちの読書活動の推進に努めます。

図書館の役割

子どもの読書活動を推進する



読書の楽しみを子どもに伝える3つの方法

子どもに読書の楽しみを伝える方法には、主なものとして3つあります。

1 読み聞かせ

大人が子どものために本を読んであげることです。子どもの希望に沿って一緒に本を楽しみます。赤ちゃんや幼児でも、読んでもらうことで本の世界を楽しめます。じっと聞くことで、自分で読むよりも情景や人物の心の動きを丁寧に思い描くことができ、読書の基礎となる「イメージして楽しむ力」が育ちます。これをきっかけに、本が好きになる子どもが大勢います。絵本や本を知るように努力し、読み聞かせに向く本を選び、作品の魅力が自然に伝わるように読んでいきます。



2 ストーリーテリング

本に収録された昔話や物語を覚えて語ることです。語り手が作品を自分のものにしてから語るため、その思いや解釈がより伝わりやすく、語り手と聞き手の視線が合いやすいので、読み聞かせとはちがう感動が生まれます。聞いている子どもは、本の挿絵にしばられることなく独自の世界をイメージして楽しめます。聞くことに集中し、言葉の響きや表現にも敏感になります。こうして文学を楽しむ素地が自然に育ちます。



3 ブックトーク

テーマを決めるなどしてあらかじめ用意した数冊の本を、お話の流れに沿って紹介することです。世の中には面白そうな本がたくさんあると気づかせることができれば、広い意味で目的を達したといえます。テーマを決め、本を選び、構成を考えます。タイムテーブルと台本をつくり、練習を重ねてから実施します。特に重要なのは、本選びです。対象となる子どもの関心事や読書力を考慮し、紹介するに値する本を選びます。多様なジャンルにおける良質な児童書を数多く知っておくことが必要です。



「三芳町子ども読書活動推進計画」は、町ホームページで閲覧できます。簡易版は中央図書館で配布しています。

教育だより
問い合わせ
中央図書館 ☎ 258-6464

にあたり、図書館の果たす役割が大きく、さまざまな取り組みが必要となります。町立図書館では、平成2年の中央図書館開館以降、①読み聞かせ ②ストーリーテリング ③ブックトークなど、子どもに読書の楽しさを伝える取り組みを積極的に進めてきました。④詳細は左頁参照
対象年齢を細やかに分け、子どもたちの関心・読む力が伸びるようなプログラムを組んでいます。一緒に参加した保護者には、家庭での読み聞かせを積極的に勧めています。

積極的に本を読む子が育つ環境づくり

テレビや電子ゲームに囲まれた現代社会で、子どもたちの読書意欲をかき立てるには、読書に親しむ環境作りに配慮することが大切です。身近に、子ども

にとって楽しい本、知識欲を満たしてくれる本が数多く、適切な時期に適切な本が手渡される状況があり、さらには経験を積んだ司書によるちよつとした手助けがあるといった環境を、図書館や学校、町全域に整備していくことを目指します。子どもたちの積極的な好奇心や知識欲から発する、自由で楽しい読書活動を支援します。

読書支援ボランティア活動推進の取り組み

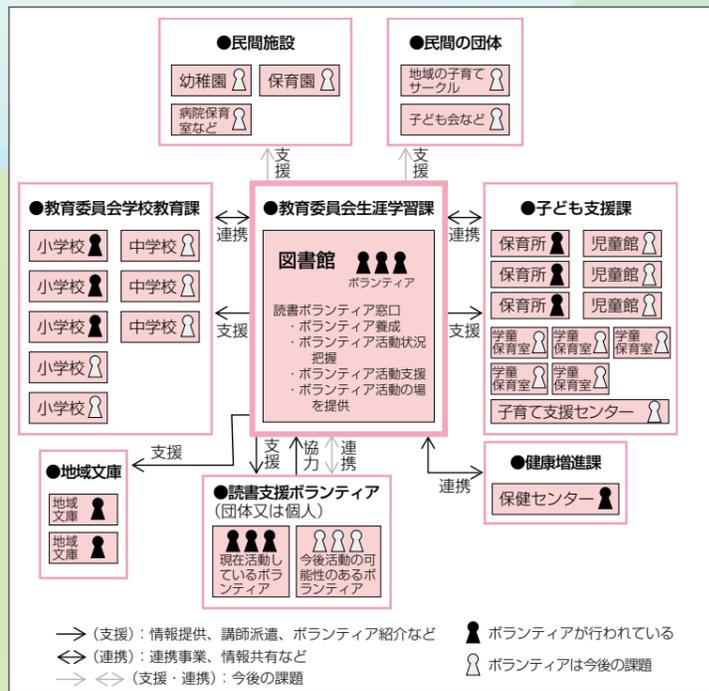
これまで町立図書館や学校図書館などにおいて読書支援ボランティアが様々な活動を行い、子どもの読書活動推進に大きな役割を果たしています。

読書活動支援のボランティアは、絵本の読み聞かせや紙芝居、ストーリーテリング、ブックトークなどの行事を行い、活

発な活動を展開しています。

町の読書支援ボランティア

図書館事業に協力している「めぐらボランティア」、「スィミーおはなし会」、「ブックスタート・ブックスタートプラスボランティア」、「本につなげる館内展示ボランティア」。図書館や小学校その他、広くおはなし（ストーリーテリング）を届けている「おはなしサークル」が



↑子ども読書ネットワークの関係図（人のつながりに関係するもの）平成24年3月の状況。現在はさらに進んでいます。

にかにこそこそ。学校で読み聞かせをしている「空（から）風流（ふる）」（藤久保小学校）、「ミツケ（唐沢小学校）」、「モモ（竹間沢小学校）」、「下富小読み聞かせボランティア」など。図書館では、今後もボランティア養成を積極的・継続的に実施し、要請を受けた機関へボランティアを紹介したり、ボランティア活動を支援できる「子ども読書ネットワーク」の構築に努めていきます。